

神戸昇天教会月報

〒652-0015 神戸市兵庫区下祇園町39番7号 神戸昇天教会

牧師 小南 晃 電話 (078) 361-4490
FAX (078) 361-4539
編集 「月報」編集委員 振替口座 01110-2-10517

今年の標語

「来てみませんか」と、誘える教会を目指そう。

努力目標

- ◎ 祈り合う交わり。
- ◎ 宣教協議会を開く。
- ◎ 教会ホームページとリーフレット作成。
- ◎ 地域との交流促進。

聖語 喜ぶ人とともに喜び、泣く人とともに泣きなさい(ロマ 12:15)。

寄り添ってくださる主 ～自らを命のパンとされてまで～

イエスは目を上げ、大勢の群衆が御自分の方へ来るのを見て、フィリポに、「この人たちに食べさせるには、どこでパンを買えばよいだろうか」と言われたが、こう言ったのはフィリポを試みるためであって、御自分では何をしようとしているか知っておられたのである。フィリポは、「めいめいが少しずつ食べるためにも、200デナリオン分のパンでは足りないでしょう」と答えた。(ヨハネ6:5-7)

司祭 ミカエル 小南 晃

8月21日(火)から聖公会関係学校教職員研修会が神戸で開かれ、そこで高木慶子修女様の講演をお聴きました。高木修女様は、終末期患者の方の看取りや、東日本大震災で家族を失った方々との関わりを通してのグリーンケア(悲嘆回復)についてお話くださいました。悲しみ、苦しむ者に「寄り添う」事の大切さと、それこそが人を癒していくことを改めてお聞きする事が出来ました。

冒頭の聖句は「5000人の供食の奇跡」の一部です。この奇跡については先月も見て参りました。最初に「イエスは目を上げ、大勢の群衆がご自分の方に来るのを見て」とありますが、この個所をマルコによる福音書で見ますならば、イエスはその群衆の「飼い主のいない羊のような有様を深く憐れみ(マルコ6:34)」とあります。この深い憐れみとは断腸の思いといった意味です。即ち、この奇跡に先立って、イエスは捨て置かれた状態の群衆の悲しみ、苦しみに、まず深く「寄り添われている」ということです。

「寄り添うか、否か」の差

そして寄り添いつつ、「この人たちに食べさせるには、どこでパンを買えばよいだろうか」と聞かれました。しかしフィリポは、どれほどのパンが必要かと即座に計算し、そんな事はとても無理と答えました。一方、もう一人の弟子のアンデレは、「ここに大麦のパン5つと魚2匹とを持っている少年がいます。けれども、こんなに大勢の人では、何の役にも立たないでしょう」とイエスに申し出るようになります。そしてそれがイエスに捧げられ時、5000人の供食の奇跡が生じました。

フィリポのように即座に200デナリオン分のパンでも無理と言ってしまうのか、アンデレのように、「何の役にも立たないでしょう」とためらいながらも、イエスに申し出る事の差はどこから生じるのでしょうか？

フィリポは、即座に計算できるだけの冷静さと距離を群衆と自分の間に保っています。さらに言えば、距離を保つ事は自分の身を守ろうという意識の現れなのかも知れま

せん。それに比べて、アンデレには、できればイエスの御心に沿って何とかしたいという「寄り添う」思いが、多少あったのではないのでしょうか。即ち、「寄り添うか、否か」の差が、その違いの一つではないかということ です。

イエスの「寄り添い」に触れて

イエスはフィリポを試しながら「御自分では何をしようとしているか知っておられた」とありましたが、それは「5000人の供食の奇跡」をなさろうとしていたというよりも、この奇跡の後、イエスと人々また弟子たちとの間で、まことのパンとはなにか？ 本当の命とは何か？ といったテーマで問答や教えが語られて行きます。そしてその結論から言えば、イエスのなさろうとしていたこととは、私たちを救い、永遠の命を与えるためにご自分の命を犠牲にし、天からのまことのパンとして私たちに与えるということ です。言わば、イエスは究極的な形で私たちに「寄り添ってくださる方」だということ です。そして私たち自身が、そのように寄り添ってくださっている主イエス・キリストの愛に触れた時、私たちも他者に寄り添って行く者に変えられる事になるでしょう。

主イエス・キリストは、私たちに永遠の命を与えるため、天からのパンとしてご自分を私たちに与えてくださるまでに寄り添ってくださっています。その愛をさらに深く知って、私たちも他者に寄り添い、自分自身を捧げて参れますよう共に祈り求めたいと思います。

定例集会

日 午前7時 早朝聖餐式
" 9時15分 教会学校
" 10時30分 聖餐式・説教
午後6時 夕の礼拝

火 午前10時30分 聖書研究会
土 午前10時30分 教会掃除
(ご奉仕をお願いします)